

生きることは食べること

小学校最後の夏休みの四日間を、僕はお寺で過ごしました。奈良薬師寺の寺子屋でいろいろなことを経験し、厳しさの中から多くを学び、気付くことが出来ました。

実は内容をあまり知らずに参加したので、想像以上の厳しさに帰りたくなることもありました。お寺では、朝の五時から金堂へ行き国宝の薬師如来様の前でお経を読みます。月光菩薩様が神々しく光り輝き、清々しい気持ちになりました。でもやはり四時起床は厳しく辛かったです。

そして何より辛かったのは食事です。お寺では食事も修行の一つです。もちろんずっと正座で食べます。絶対にしゃべってはいけません。そして全員（百人程）が食べ終わるまで目をつぶり正座で待ちます。一時間以上かかることもあり、足の痛さに泣いている人もいました。毎日食事がいやになりました。

なぜこんなに厳しいのか。理由を教えてもらいました。「食」とは「人を良くすること」である。命をいただき、命をあずけるのが食事である。命に向き合い、命を敬うには、姿勢を正して私語をつつしむのが作法だと。小さな豆粒から大きな牛までどんな命も平等だということに気付かされました。

寺子屋を終えて家に帰り、何気なく正座をすると「姿勢がいいね。見ている気持ちがよくなるよ」と母が褒めてくれたのです。そしてお寺では食べることの出来なかった魚や肉を夕食に出してくれました。命をかみしめ、こんなに命が美味しいと感じたことはありませんでした。「美味しいね」と語り合いながら、寺子屋で学んだ「喜びと感謝と敬いの心」が深くこみあげて来ました。

すべての命が僕に「生きぬく力」を与えてくれている。この先僕は、正座をし姿勢を正すたびに、そう思い起こすでしょう。